



震災の教訓、災害への備えを学ぼう

「かほく防災記者」研修生募集

宮城県の中학생対象

河北新報社は宮城県内の中学生を対象に、東日本大震災の教訓や災害への備えを学んで発信する「かほく防災記者」の第3期研修生を募集します。



従来の仙台会場に加え、新たに石巻会場を設けます。研修を通し、災害の伝承と防災の担い手の育成を目指します。研修は日曜午前になん4回行い、受講は無料。会場と実施日は、仙台が同市青葉区五橋の河北新報社本社で5月28日、6月25日、9月24日、12月17

今年から石巻でも開催

日。石巻が同市千石町の河北新報社石巻総局で6月4日、7月2日、10月1日、12月10日です。夏と秋の2回、課題実践で家庭の備えに挑戦してもらいます。

研修会の様子は、河北新報の紙面で紹介します。研修生には家族と一緒に災害対策や避難訓練に挑戦し、防災記者として新聞記事を書きます。定員はそれぞれ10人程度。応募には保護者の同



●第1回研修で自分と家族の被災体験を発表し合い、教訓を共有した。2022年5月29日、仙台市青葉区の河北新報社。●第2回研修では、津波への警告(けいこ)が刻(きざ)まれた石碑(せきい)から災害伝承の大切さと難(むず)か(し)さを学んだ。2022年6月26日、宮城県山元町震災遺構(いこう)。中浜小

研修と課題実践の内容

●第1回研修(仙台5月28日、石巻6月4日)

事前に家族や自分の被災体験、過去に地元で起きた自然災害を調べ、発表し合います。災害の記憶を家族と共有し、今後の備えに生かすことが目的です。

●第2回研修(仙台6月25日、石巻7月2日)

東日本大震災の被災地を訪問し、語り部から震災前の生活、被害、復興の歩みを聞き、原稿を書きます。

●夏の課題実践「防災・減災に挑戦」(7~8月)

「マイ持ち出し袋の作製」「家の地震対策を实践」などからテーマを一つ選び、夏休みに家族と取り組んでください。成果や課題について原稿も書きます。

●第3回研修(仙台9月24日、石巻10月1日)

風水害への備えの一環で、家族の行動を時系列で決めておく予定表「タイムライン」を作ります。地域のハザードマップで災害リスクを調べ、避難準備、移動開始のタイミングなどを書き込み、完成させます。

●秋の課題実践「私が主役の避難訓練」(10~11月)

自宅から最寄りの避難先まで、家族と避難訓練をしてもらいます。行きは移動時間を調べ、帰りは危険箇所、災害発生時に役立つようなもの、場所などをチェックします。

●第4回研修(石巻12月10日、仙台17日)

「私が主役の避難訓練」をまとめた原稿を発表した後、見出しの付け方など編集作業を教わりながら一人一人「マイ防災新聞」を完成させます。

秀光中1年 大橋もも音さん

複数の避難所 準備が大切

皇のある石巻市の総合防災訓練に合わせて昨年11月6日、祖母と一緒に避難道のルートを確認し、避難所を調べた。この日、祖母と一緒に避難道のルートを確認し、避難所を調べた。この日、祖母と一緒に避難道のルートを確認し、避難所を調べた。

避難先の石巻市貞山小に到着。市総合防災訓練の一環で、学校では非常食が配布された。

歩きながら危険箇所を調べ、避難所のルートを確認し、避難所を調べた。この日、祖母と一緒に避難道のルートを確認し、避難所を調べた。

避難所の準備が大切。避難所のルートを確認し、避難所を調べた。この日、祖母と一緒に避難道のルートを確認し、避難所を調べた。

かほく防災記者が原稿を書き、見出しも考えた避難訓練の記事=2023年2月14日の河北新報朝刊(ちょうかん)



QRコードから登録フォームにアクセスできます

意が必要です。応募多数の場合は志望動機を参考に選考します。研修生は河北新報社の記事データベースを無料で使用できます。研修を終えた生徒には修了証を交付します。

河北新報社オンラインニュースの登録フォーム、QRコードから申し込みます。締め切りは5月14日。連絡先は河北新報社 防災・教育室022(211)1591。メールは chugaku@po.kahok-u.co.jp